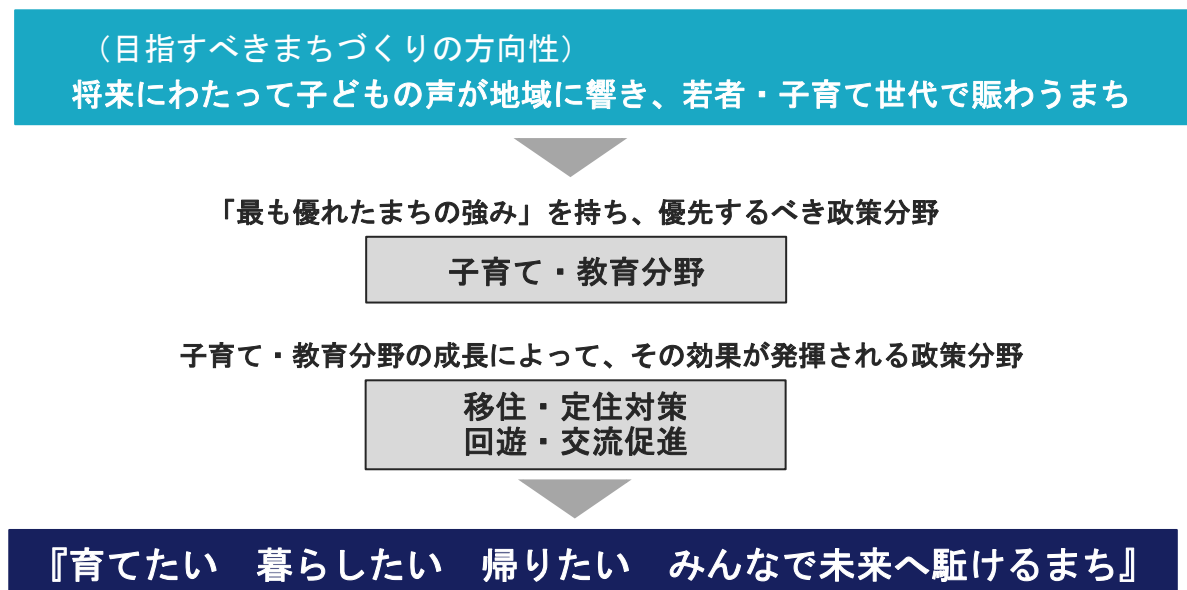


### 【第3章の概要】

- ◆第2章第6節で結論付けた「目指すべきまちづくりの方向性」や「最も優れたまちの強みを持ち、優先すべき政策分野」、「優先すべき政策分野の成長によって、その効果が発揮される政策分野」に基づき、これらをイメージしたまちづくりの将来像を次のとおり設定します。



- ◆まちづくりの将来像を実現するため、目標となる指標を設定します。

(計画最終年)

指標①「人口」⇒ 目標人口 7,500人

指標②「このまちが好きな人」「暮らし続けたい人」の割合 ⇒ 目標値 いずれも90%

- 「目指すべきまちづくりの方向性」 ①将来にわたって子どもの声が地域に響き、若者・子育て世代で賑わうまち
- 「最も優れたまちの強みを持つ政策分野」 ②子育て・教育分野
- 「優先すべき政策分野の成長によって、その効果が発揮される政策分野」 ③移住・定住対策 と 回遊・交流促進

### ①～③によって導かれる「まちづくりの将来像」

札幌圏に近いながら、誇れる自然と景観を持ち、ゆったりとした時間が流れる安平町。

しかし、この恵まれた利点をまちづくりに活かすきれいな長年の課題を抱え、少子高齢化が進む今、将来に向けて大きな岐路に立たされています。

『子ども達の元気な声が地域に響くと高齢者も元気になる』『この町の未来には若者が必要』

これらは、まちづくり町民アンケート、団体ヒアリング、町民まちづくり会議で、主に年配の方から多く寄せられた声です。

一方、町民まちづくり会議に参加した子育て世代の方からは『子育てを応援してくれるおじいちゃんやおばあちゃんには、いつまでも元気に活躍してもらいたい』という声も多くありました。

子どもの元気な声がまちに響き、若者や子育て世代で賑わいがある中、子どもから高齢者まで全ての町民がそれぞれの舞台上で躍動し、得意分野で誰かのために活動できる住み良いまち。

これが“まちづくりの理想像”であり、どのように実現するかが問われています。

都会に比べて、多くの町民がまちづくりに関わりを持っている安平町。

特に、世界で活躍するスポーツ選手を多数輩出する伝統を持つ当町では、未来を担う子どもの可能性と希望をみんなで応援しようという歴史が長年受け継がれ、地域の大人が先生、まちが1つの学校・家族となり、体験活動や文化・スポーツなど様々な場面で子育てや教育が支えられています。

これが最も優れた“あびらの強み”です。

地域の支えにより育てられた子ども達は、やがて立派な若者へと成長し、自分の可能性を信じて、外の世界へと羽ばたいていきますが、泥だらけになって遊んだ子どもの頃の記憶、心温まる人情深い地域の人たちとのふれあいは、忘れられない情景として心に刻まれ、たとえ離れて暮らしていてもふるさとを思う気持ちを呼び起こすでしょう。

地域全体で子どもを育てるという“あびらの強み”を更に伸ばすことは、子ども達に楽しい体験を与え、このまちに住む子育て世代に安心感をもたらし、子どもとのふれあいを通じて高齢者の生きがいを高め、このまちに暮らし続けたいと思う気持ちへとつながり、同時に、都会に住む若者や子育て世代からも共感を生み、あの町で暮らしたい、あの町で子どもを産み育てたいという“選ばれるまち”へと結びつくでしょう。

『将来にわたって子どもの声が地域に響き、若者・子育て世代で賑わうまち』を目指し、最も優れた“あびらの強み”を活かして、あらゆる世代の人たちができる範囲でまちづくりに関わりながら、“みんなでこのまちの未来を創る” “未来に向かって駆けて行く” そんな姿をイメージし、まちづくりの将来像を次のとおり定めます。

育てたい 暮らしたい 帰りたい  
みんなで未来へ駆けるまち



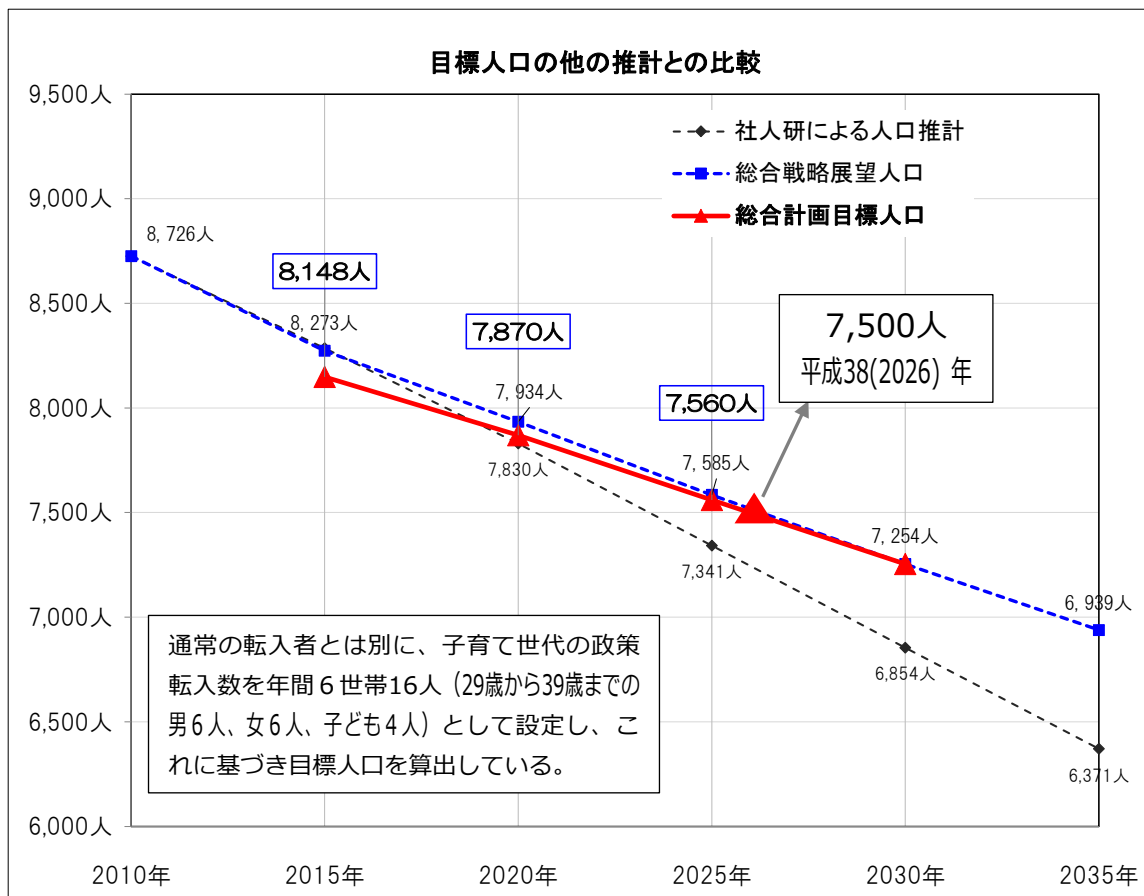
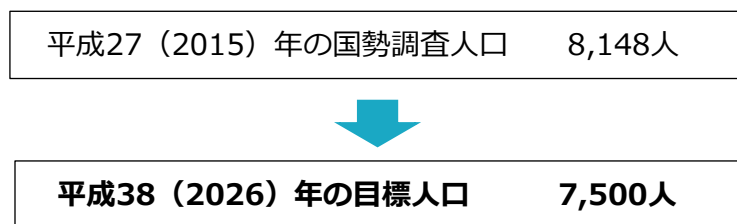
## 第 2 節

# まちづくりの将来像の実現に向けた指標

### (1) 目標人口

当町の人口は、平成38（2026）年には7,300人を切り、更に平成52（2040）年には5,897人まで減少すると推計されています。

第2次安平町総合計画における目標人口については、平成28（2016）年1月に策定した安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略で掲げた「子育て世代に選ばれるまち」、「生涯住み続けることができるまち」という目標に基づき、既に出生率の向上と転入者の増、転出者の抑制に取り組んでいることから、同戦略で示した人口ビジョンの将来展望人口を基に次のとおり設定します。



出典：安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略

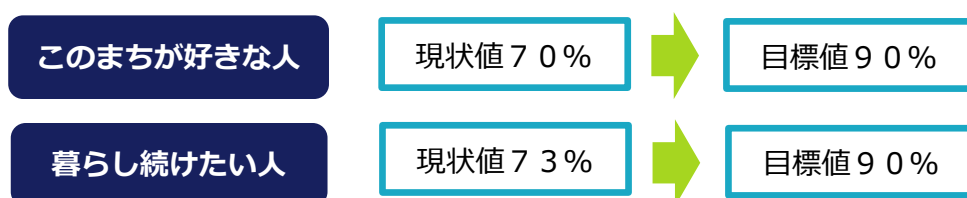
\*平成27（2015）年の国勢調査の結果人口は8,148人となり、平成22（2010）年の国勢調査結果に基づき推計した安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略の展望人口と比較して既に125人減少している。

## (2) まちへの愛着度と定住意向の向上

“将来にわたって子どもの声が地域に響き、若者・子育て世代で賑わうまち”を目指して設定したまちづくりの将来像を実現していくためには、現在住んでいる町民、特に次の10年、20年を担う若い人たちに「このまちが好き（愛着度）」「このまちで暮らし続けたい（定住意向）」と感じてもらうことが重要です。

単なる郷土愛や地元愛ではなく、住んでいる場所を自らより良くしようとする当事者意識を持ち合わせた町民のまちに対する「愛着と誇り（シビックプライド）」を高めることで、町外の人たちからも魅力的なまちに映り、選ばれるまちへと結びつきます。

町民が自治の主役として、主体的に考え、積極的にまちづくりへ参画することを規定した安平町まちづくり基本条例の理念に基づき、愛着度と定住意向を指標として設定し、第3次安平町総合計画の策定段階で検証します。



第3次安平町総合計画策定時にアンケートを実施し、検証を行う。

\* シビックプライド：19世紀のイギリスの都市で重要視された考え方で、「まちに対する誇りや愛着」とは、まちをもっとより良い場所にするために、自分自身が関わっているという当事者意識に基づく自負心を意味する。

\* 愛着度と定住意向の現状値：平成27（2015）年に実施した「まちづくり町民アンケート」において、それぞれ「愛着を感じる・どちらかといえば愛着を感じる」「住み続けたい・どちらかといえば住み続けたい」と回答があった合算値

